


評価公表日：2018年12月17日

評価対象	評価符号
<p style="text-align: center;"><b>みずほフィナンシャルグループ</b></p> <p>【会社概要】 日本の三大金融グループの一角で、みずほ銀行、みずほ証券、みずほ信託銀行などを傘下を持つ。</p>	

※当評価は、傘下のみずほ銀行、みずほ信託銀行、みずほ証券の評価を平均したものです。

## 評価のポイント

- 顧客本位の業務運営に係る方針等の策定・公表等  
みずほフィナンシャルグループ一体で、経営トップがリーダーシップを発揮して顧客本位の投信販売（Fiduciary Duty：FD）を推進していると認められる。四半期ごとにFDに関するアクションプランの進捗状況や従業員への定着度も確認するなど、FDに関する意識の高さがうかがえる。
- 顧客の最善の利益の追求  
グループ各社とも、顧客にふさわしい優良な投資機会を提供するために必要となる高度な専門性などを習得させる各種研修や資格取得制度が充実しているほか、従業員へのFDの浸透策もきちんとなされていると認められる。
- 投信販売方針策定及び販売、レビュー  
グループの販売機能における役割に応じて、各社ともそれを実践するための営業員への教育、ツール、情報提供などのサポート体制が充実しているといえる。
- 取扱投信の選定・モニタリング  
取扱投信の選定は、決められたルールに基づき決定しており、組織的に行っている。内外の評価機関を活用し、販売停止や取扱投信の運用実績、運用会社の運用体制などの確認も含め、適切な判断が可能な仕組みが構築されている。
- 従業員に対する適切な動機づけの仕組み等  
グループ各社とも、業績評価では収益に偏らない体系にしており、FDの観点を重視する工夫がみられる。また、営業店や営業員に対してFDの実践を評価した表彰制度を導入している。

## 「R&I 顧客本位の投信販売会社評価」について

銀行、証券会社などが、いかに投資信託の販売において「顧客本位の業務運営」を行っているか、その取組方針や取組状況を依頼に基づき、中立的な第三者の立場から評価します。投資信託の購入に際してアドバイスを必要としている個人投資家が販売会社を選ぶ際に、この評価を参考指標として利用することを想定しています。

評価符号とその定義は以下の通りです。

符号	定義
<b>SS</b>	顧客の最善の利益を図るための取組みが十分に行われており、非常に多くの優れた要素がある。
<b>S</b>	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われており、多くの優れた要素がある。
<b>A</b>	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われており、優れた要素がある。
<b>B</b>	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われているが、改善すべき要素がある。
<b>C</b>	顧客の最善の利益を図るための取組みが不十分であり、改善すべき要素が多い。

(注) S と A については、上位評価に近いものにプラスの表示をし、それぞれ S+、A+ と表示することがあります。プラスも符号の一部です。

R&I 顧客本位の投信販売会社評価は、投信販売業務を行う金融事業者の「顧客本位の業務運営」に関する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。十分信頼できると判断される情報源からの情報に基づき評価を実施していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。この評価情報の利用によって何らかの損害が発生した場合、その原因がいかなるものであれ、R&I は一切の責任を負わないものとします。R&I 顧客本位の投信販売会社評価は R&I 投信定性評価・定量評価レーティングとはそれぞれ独立のものであり、互いの評価に影響を与えるものではありません。R&I 顧客本位の投信販売会社評価の業務は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。